

# 鳥取西高近畿同窓会報

第 6 号  
2014年3月1日発行

発行：鳥取西高等学校近畿同窓会  
発行責任者：米澤道隆（西高39年）  
編集責任者：山内紀嗣（西高43年）



## 第五〇回記念総会

### 盛大に開催

#### —新会長に米澤道隆氏を選出—

創設半世紀を迎えた第五〇回鳥取西高近畿同窓会は、遠路母校より鈴木洋志副校長（西高四八年）、蔵多総務部長（西高五一年）、鳥取西高同窓会西尾公孝副会長（西高三七年）、そして県の関係機関から米田裕子鳥取県関西本部長、鳥取

東高から京阪神東雲会岡田俊一會長、鳥取商業高から双葉会和田澄子會長、また、鳥取県立公文書館から岡村吉彦、山田陽子室長（西高六一年）を来賓にお迎えし、平成二五年六月三日（日）大阪キャッスルホテルにて総勢七六名参加のもと賑やかに開催しました。

いう大きな節目の年を迎えたことを大いに喜び、今後さらなる発展を祈念したい。また、一七年もの長きにわたった會長職はこれを機に後進に譲りたいとの話がありました。さらに「今回は皆様方の積極的な働きかけにより大変多くの方々に出席をしていただくことができた。これからも近畿同窓会発展のためご協力をいただきたい」との挨拶がありました。

議事では、平成二四年度決算報告・会計監査報告、平成二五年度予算案、役員改選について承認されました。

なかでも、役員改選については一八年振りとなる會長人事が提案され、高野泰明會長が名誉會長へ、新会長には米澤道隆幹事長（西高三九年）が就任しました。さらに谷紀昭副會長（西高三〇年）、植村京子副會長（西高三四年）、山内紀嗣幹事長（西高四三年）、水谷陽子幹事（西高四三年）、山田陽子幹事（西高四五年）、安宅寿昭監査（西高四三年）が新役員として紹介されました。

また各ご来賓の皆様からお祝いの言葉をいただき、次いで特別講演として、鳥取県立公文書館歴史編さん室長の岡村吉彦氏による「織田と毛利の鳥取城攻防戦」について講演を頂き約一時間にわたる熱弁に聞き入りました。

懇親会の部は、この度副會長に就任した植村京子さん（前述）による乾杯の音頭で開始、引き続き植村京子さんと水谷陽子さん（前述）の琴、及び足立伸之助さん（西高三四年）の尺八による見事な箏曲演奏がありました。

今年はい〇〇回記念ということで、西高貯蔵資料の映像紹介、五〇回を振り返る写真コーナーの設置、四七年卒の方が作成された「あの時わが青春」の映像紹介、會員有志による楽器演奏など盛りだくさんの企画で大いに楽しむことが出来ました。

フィナーレでは例年の如く一中、高女、西高の校歌を高らかに歌い、大盛会となった今年の催しの数々に余韻覚めやらぬなか再会を誓いつつ、高野彰允副會長（西高三十六年）の一本締めで無事閉会となりました。

（近畿同窓会事務局 村江信幸）

### 鳥取西高 近畿同窓会役員

- 名誉會長：高野泰明（西高25年）
- 會長：米澤道隆（西高39年）
- 副會長：田中勲（一中56回）、谷紀昭（西高30年）、植村京子（西高34年）  
高野彰允（西高36年）
- 幹事長：山内紀嗣（西高43年）
- 幹事：中嶋輝夫（西高26年）、太田匡四郎（西高26年）、岩永建夫（西高42年）、本家公（西高43年）、水谷陽子（西高43年）、山田陽子（西高45年）、村上悦洋（西高48年）、川上浩一（西高50年）
- 監査：斎藤哲也（西高28年）、安宅寿昭（西高43年）
- 事務局長：村江信幸（西高43年）（下線部は新任、ゴシックは昇任）



### 第51回鳥取西高近畿同窓会のお知らせ

期 日：平成26年6月29日（日） 11:00～15:30

受付は 10:30 より

会 場：大阪キャッスルホテル6階  
大阪市中央区天満橋 1-1 Tel 06-6942-2401

①総会：11:00 ②懇親会：12:00～15:30

会 費：¥7,000 <会場にご持参下さい>

(29歳以下の会員は 5,000円)

西高創立170周年の記念DVDを上映します

恒例の長寿（満90歳）のお祝いをします



# 「希・情熱を

## 演じる人生を！」

植村京子(西高三四年)

思えば、二一世紀の始まりの年の平成一三年三月、西高同窓会報二号が発行されました。その会報に近畿同窓会より「道一すじ・一生勉強」の記事を載せて頂いたのを、懐かしく思い出しています。昭和一六年生まれの私は還暦を迎え、己の年の当たり年を、人生これから折り返しと「若い人を愛し、保護し、育て、時にはアドバイスしたい」とパワー全開希望に燃えています。そして今、己の年で幕を開けて、又冠支一二支が一回りして、また再び己の年に会報に載せて頂いたことに、不思議な縁(えにし)を感じます。

しかも「西高開校、百四十周年記念」の意義ある年に。

「道一すじ・一生勉強」のすぐ後、六一歳の私は膨らみかけた蕾をもって大学生になりました。六九歳で見事に開花するまでの八年間は、私の人生の一ページに深く刻み込まれています。還暦を過ぎての無謀なまでの意識改革の結果でしたが、何よりのきっかけは、百二歳でお隠れになった故・人間国宝



菊原初子先生とのお別れで、私の心底にあった原点に戻って学びたいという向学心でした。二二歳で琴・三絃の師匠となつてから五〇年間休むこともなく演奏・教授活動を続けてきて、芸術の憧れと希望は、私をより高く・より偉い目標をはつきり持ち、末永く自分の一生を実現させるという理想を持つことができましたが、それよりも前に、

何よりも西高の校歌にあるように「歴史は長き・久遠の理想・」と西高で培ってきた三年間の日々があればこそと思います。

平成一三年に、大阪芸術大学に初めて芸術学部・音楽学科の通信教育課程が出来たという幸運なタイミングに、私は二期生として翌年入学したのでした。子供どころか孫のような活気みなぎる若者、私のような年配者はほとんどいません。唯一の音楽学科だけに、日本全国から集まってきた学生が多く、友人も多彩でした。音楽の奥義追究の仲間が増えていきましたが、卒業にこぎつける学生は二割にも満たない事実で、それほど仕事との両立は大変でした。念願であった卒業と良知良能を伸ばしながらやり遂げた自分を思わず少しだけ褒めたことでした。

又、年と共に衰えようとする体力・気力を維持することの難しさに打ち勝ちながら、艱難辛苦乗り越えることができたことも、文武併進の西高の魂、そのものがあつたからこそ！この魂のレベルの高い西高は私の誇りです。

### 関西で

#### 鳥取県産品を販売中

食のみや之鳥取県



大阪で鳥取の食物を簡単に購入できるところが増えました。

これまでから豊中新千里のピーコックストア千里中央店で「鳥取うまいもん市場」として鳥取牛カレー・あご入り鱈ぶりだし・砂丘らっきょう甘酢漬けなど約五十品目を販売しています。

さらに昨年六月より新しくできました「あべのハルカス」近鉄本店タワー館地下二階で「鳥取特集コーナー」が設けられ鳥取黒毛和牛の御膳や受りホタルイカなど約三六品目を販売しています。

#### 関西いなば会が発足しました

平成二四年六月二十九日に「関西いなば会」が発足しました。関西在住の鳥取市出身者を中心に東部いなば地域出身者や関係者たちの集まりです。

会では会員の親睦と故郷の貢献に寄与するのが目的です。美しい緑と海で育った同郷の方とふるさと鳥取を思い出しながら交流の輪を広げて行くことになっています。

入会希望の方は大阪駅前第三ビル二階の鳥取市関西事務所へお問い合わせ下さい。年会費千円。

電話 〇六一六三四一―三九九〇

#### 西高昭和四三年卒の

同窓会が開かれる

昨年一月一七日、神戸のホテル北野プラザ六甲荘で昭和四三年に卒業した近畿地区の同窓会が開かれました。

鳥取西高を卒業後四五年という節目。近畿地区在住者を中心として鳥取はもとより、広島、今治、遠くは関東、北陸からの参加者を含め四四名が集まりました。近況報告から思い出まで大盛り上がり、歓談はつきませんでした。最後は恒例の元応援団長の音頭で校歌の大合唱。午後一時に始まった公は名残も尽きず、二次会、三次会と深夜に及んだ人もいたようです。



## 西高創立一四〇周年

## 記念式典に出席して

## 西高近畿同窓会長

米澤 道隆 (西高三九号)

その日、平成二五年一〇月二五日(金曜日)、季節外れの台風二七号の影響で昨日からの雨が残る中、大阪駅九時二四分発「スーパーはくと三号」は定刻通り一時五七分鳥取到着。プラットホームに降りると眼前に一直線に伸びる若桜街道の向こうに鳥取市のランドマークともいべき久松山が飛び込んでくる。OBにとり久松山は母校を想起させるシンボルでもあるのでやはり懐かしく、又記念式典への出席とも相まって気持ちの昂ぶりを覚えながら会場である県庁前の鳥銀文化会館へと向かう。

メイン会場の梨花ホールに入るとまだ開式前なので当然なのだが、ロビーで多くの現役西高生が談笑しておりその若さ溢れる元氣な姿をみて、自身約五〇年前の現役当時にタイムスリップしたような不思議な感覚に襲われる。そうこうしているうち開式の時となる。

ここで当日のプログラムを紹介したい。式典は三部から構成されていた。



## 第一部 記念式典の部

「国歌斉唱」に始まり、「学校長式辞」、平井県知事を始めとする「来賓祝辞」、「来賓紹介」、「生徒代表のこぼし」、学校発展に貢献された方々への「感謝状贈呈」があり、近畿同窓会の名誉会長を五年間務められた一中大先輩である元アシックス会長の故鬼塚喜八郎氏へも贈呈された。やはりプログラムのメインであるだけに厳粛さと緊張感が漂う中、予定の時間があつという間に終わる。

## 第二部 記念講演の部

西高昭和六二年卒業で、現在公立豊岡病院・但馬救命救急センター長をされている小林誠人(まこと)氏による「地域貢献としての救急救命医療の現場から」と題した講演があつた。ドクターヘリで救急救命のため東奔西走される様子をプロジェクトによる動画を交えわかり易く説明。患者を待ち受ける病院の医師ではなく、患者の現場にへりで出向き救命措置を行う先生の任務は一刻を争う時間との競争であり、多くの命が救われている現実を知るとともに、卒業生が地域に多大に貢献している事実を知る素晴らしい内容であつた。

## 第三部 記念演奏の部

「管弦楽部」「応援団」「吹奏楽部」の現役西高生のニクラブの記念演奏・演舞があつた。数十年前の当時はプラスチックバンド部であつたと記憶しているが、現在は「管弦楽部」「吹奏楽部」に発展している姿に時代の推移を実感させられた。

最後は、吹奏楽部の演奏で「校歌」を高らかに斉唱し最高潮の中無事終了した。

さて今回近畿同窓会を代表し、母校の一四〇周年という新たな歴史を刻む瞬間に立ち会えたことは誠に幸運であり深く感謝する次第である。

台風の影響により、関東・東海両地区同窓会代表の方々が急遽欠席を余儀なくされる中出席できたことは、近畿同窓会として最低限の任務を果たせたのではないかと安堵している。

また、この式典を通じ母校の変化・変遷を強く感じさせられた点が何点かある。

まず学校行事の大きな節目である記念式典となれば、先生方のシナリオで進行するものと予想していたのだが、実際はすべて生徒の皆さんの企画・進行によるものであり、しかも要は殆ど女生徒の皆さんが担っていたのにはほんとうに驚いた次第である。西高女子力の力強さと生徒を信頼し自主性を引き出す教育方針を感じた。

二点目は前述した「管弦楽部」「吹奏楽部」であるが、その構成において部員の殆どが女生徒であつたこと。私の西高時代のプラスチックバンド部は男子主導であつたので過去の固定概念を払拭させられた。

その他にも、現在は募集教科も普通科のみとなり、商業科や家政科、そして定時制や通信制などを擁し総合高校として威容を誇っていた最盛期の生徒数三千人は今や一千人となっている点である。学科の再編は時の流れとはいえ、変化への機敏な対応でもあることを強く感じさせられた。

母校創立一四〇周年は、明治六年(一八七三年)一〇月二八日、鳥取藩(池田藩)の藩校であつた「尚徳館」が第四人



学級第十五番変則中学として開校したことにより来しているが、その尚徳館のルーツを辿れば、遠く池田家第五代藩主・重憲(しげのり)候の時代の宝暦六年(一七五六年)に遡る。実に二六〇年にも及ぶ歴史の重みが日本有数の伝統校と「われる所以である。

式典への出席を機に、一人のOBとして母校の益々の発展を祈ることは勿論のこと、今までと同様これからも、地域をリードする一歩校であり続けてほしいと願いつつ帰途に着いた次第である。

末尾ながら当日は、坂口校長、鈴木副校長、威多総務部長及び同窓会の松下会長の皆様方に大変お世話になったことをこの場をお借りし記しておきたい。

# 戦前の鳥取一中時代

## の思い出

村江汎愛（一中五回）

戦前の五年制の鳥取一中に憧れて入学した。憧れの一つが帽子の白線、二つめは革で黒の編み上げ靴、靴の裏には鉄の鋏が打ってあり、土道を歩く感触は格別である。三つめは冬の黒マント着用姿であった。ちなみに軍隊では兵隊はオーバーであり、将校はマントであつて他の中学校とはこんなところにも格の違いをみせつけていたと思う。

昭和二二年から制服の色がカーキ色となつて詰襟が折り襟となり、戦時色一色となつた。昭和一五年から帽子が戦闘帽でもよいことになり、翌年からはズボンが半ズボンとなり、そのうえ憧れの白線がなくなつてしまつた。半ズボンとなつたことからゲートルは素足に巻くことになり、下駄での登校も可能になつた。真に格好の悪いことの上なしであり、さしもの一中も服装については自由となつた。軍事教練の時間だけには長ズボンに靴を履いた。

戦前の部活動は部の呼び名が「班」となり、柔道班、剣道班、弓道班、野球班、水泳班、科学班、黒鳳会班（絵画）などと呼ばれるようになり、昭和一五年頃にはバレーボール班、バスケットボール班、昭和一七年頃から相撲班、機械体操班、銃剣術班、射撃班、滑空班などが新設された。

昭和一七年には戦争が激しくなり物資欠乏によりボール中心の部活動が出来なくなる

なか、中等野球（現在の高校野球）は部活動を継続させ、鳥取県代表として甲子園に出場した。一方、柔道班は畳が手に入らなくなり、砂丘で柔道を行った。浜坂の砂丘まで走り、柔道をして終われば砂まぶれのみ、また走って帰つていった。

五年生は兵隊の経験という二泊三日の四〇聯隊への入隊があり、岩倉の射撃場での実弾射撃の経験、県下中学校の連合演習では鳥取から岩井温泉まで約十時間の徒歩の行軍、砂丘での遭遇戦、市内に入つての払戦戦があり、終わって県庁前での分列行進で幕は降りた。

約七〇年も前の戦争一色の時代、今、平和の時代にこうして思い出の数々を語り、厳しいなか楽しくもあつた五年間の一中生活であつたが、校則は厳しく「うどん屋に入れない」、「映画館に入れない」、見つかるらと謹慎処分、「喫煙禁止」「カンニング」は退学という今では考えられな中での生活が懐かしい。



# 私と西高

福田幸子（高女二四年）

私は八頭郡智頭町で生まれましたが、父の仕事の関係で大阪市東淀川へ転居し、小学校一年から五年生まで過ごし、六年生の時に疎開も兼ねて智頭町へ戻ってきました。

父は一中、母は高女の卒業で六人兄弟の長女に生まれ、戦後の厳しい時を助け合いながらのびのびと過ごしてきました。その後、両親の希望もあり、八頭高女から鳥取高女へ編入試験を受けて入学しましたが、通学が出来ないことから家族と別れてひとり、母の実家のある鳥取市内から通学しました。母からは、寂しかったら戻ってきていいよと言われながらも、何事にも真面目に取り組み、一生懸命勉強しなさい、と言われたことが今の私の心に深く残っています。

学生時代の思い出としては英語の授業が楽しく、先生から将来絶対に役にたつから頑張らなさい、という言葉のおかげで、成績優秀の評価をいただきました。また、クラブ活動で体操部（その後、音体部となり、今は新体操部）に入り、橋本先生にご指導いただきながら県体会で床個人、床団体、平均台で日ごろの練習の成果を発揮することができました。練習は当時としては大変厳しいものでしたが、自分がイメージした体の動きができ、よく悔し涙を流していました。また、当時の種目にはありませんでしたが、

器具としてはバトンもありましたので、密かにバトンの練習をしていました。大阪にいた子供の頃はクラシックバレエを習っていましたのでバトンとよく合うなあと感じていたものです。結局、今は新体操で種目となつています。

将来は絶対に英語の先生、ダンスの先生になると心に決めていましたが、英語は挫折したものの、八一歳になつた今もダンスは続けています。中学一年の孫娘がクラシックバレエをしています。子供の頃の私とダブらせながら楽しい日々を送っているこの頃です。



今年度は特別に故鬼塚氏の胸像建立のための募金を行い、それらを含めた寄付を行いました。

## 平成24年度西高近畿同窓会会計報告

(平成24年1月1日～12月31日)

| 収入    | 金額        | 支出    | 金額        |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 前年度繰越 | 1,308,452 | 通信費   | 63,365    |
| 年会費収入 | 232,720   | 印刷費   | 75,327    |
| 比会費収入 | 356,000   | 総会費   | 404,423   |
| 鬼塚氏募金 | 119,000   | 鬼塚氏募金 | 300,000   |
| 雑収入   | 277       | 雑費    | 50,787    |
|       |           | 前年度繰越 | 1,122,547 |
| 合計    | 2,016,499 | 合計    | 2,016,499 |

# 鳥取西高

—私の人格形成の礎—

中嶋昭夫（西高二六年）



小学五年の時に鳥取に疎開し、昭和二年四月鳥取一中に入學しました。戦後、教育制度が急速に変わり、教育現場で混乱が生じる中で教育を受けました。終戦直後、生徒指導方針が建てられない中で先生方は伝統的鳥取一中の「文武併進」の教育理念を貫き、教育して頂きました。幾何、製図を教えていただいた鈴木先生は大量の宿題を出して問題解決の方法論が身につくように徹底的に指導されたし、代数を教えて頂いた怖い先生猪子から登校されていた丸坊主の先生には柔軟な考え方が必要であることを教えられました。授業で宿題の答えを黒板で書いて解くように言われ出て行きました。直前に宿題の数字を全部変更され、立ち往生しました。頭が固い、よく理解できていない、と諭されたことを思い出します。物理は坂尾先生にと全ての先生が鳥取一中の卒業生で学校の伝統を教え込まれました。その中で、ばれないように巧く徒（いたすら）をして楽しむことも憶えて行きました。高校二年になり校名が鳥取一高から鳥取西高に変わり男女共学になりました。非常に戸惑い、勉強に身が入らず、早く卒業して神戸に出て造船の仕事をしたと考えていました。

幸い大学受験は許されましたが、造船

は駄目で医学部を受験しました。昭和二六年大阪大学に入學し、二九年に医学部に行き、外科医を目指しました。

しかし、外科病院で手術の手伝いをするうちに、外科の単純作業（？）に物足りなさを感じるようになり、結局、精神神経科に入局して精神科医になりました。精神科の医療は人間の心理（心の動き）に基づき精神疾患（統合失調症、躁うつ病、神経症など）の発症機序を説明し、治療する「精神療法」が主流の分野でした。この心理学に基づいた精神病理学（病気の発症の仕組みを説明する学問）が色々の学説を作り、取っ付きの悪い、理解しづらい医療分野となっております。この医療分野に内科と同じように薬剤を用いて治療する「薬物療法」を導入する仕事をしたいと考えました。私の大学恩師（佐野勇先生）が欧州で始まった統合失調症の治療薬を日本に持ち帰り、わが国で精神科の薬物療法が開始された黎明期でした。現在では薬物療法は精神科の主流の一つとなっております。昭和三四年、精神科医となって五五年間、研究、教育、臨床に従事してきました。若いときには勉強、研究を行い、十分に会得したと感じたら、臨床活動を通して蓄積したものを社会に還元するのが医師の使命と認識しています。大阪大学で助教授として医学教育に携わり、さらに京都府立医科大学で教授として精神科教室を預かりました。さらに定年後、佛教学で社会福祉上の養成のために精神医学を教えてきました。私の医学教育の

理念は医療に携わる者は、患者、クライアントの伴走者であれ、丁度、能の舞台で助手や脇の踊りを全うさせる黒子のように、といった考えでした。このような考えは戦後の混乱の中で受けた鳥取一中、鳥取西高の先生方の教育姿勢から得たものでした。

七三歳になり大学生活を卒業し、大阪の吹田市で開業医になりました。臨床医になり九年目です。今まで周りの人達に支えられて勉強させて頂いたものをお返できればと医療に従事している昨今です。

## 鳥取城の整備と西高

西高の現所在地は主に旧鳥取城の三の丸があった場所に建てられています。現在は古い建物を耐震補強して使用していますが、その後は校舎の引越しがあるかもしれません。また、学校へ入る大手道の濠を渡る部分には中の御門が再建されることになっています。

まだまだ整備には、時間がかかりそうですが、整備終了後の城跡を見るのが楽しみです。



二の丸あたりの古い写真

## 鳥取二ユース

近畿同窓会の名誉会長であった鬼塚喜八郎氏（アシックス創業者）が逝去されてから七年になります。

平成二五年五月六日には郷里の県立布勢運動公園と母校である鳥取市立明治小学校に記念の胸造が建立され、先輩の遺徳を偲ぶことができるようになりました。

式典には平井仲治知事や竹内功鳥取市長、高野泰明近畿同窓会長（現名誉会長）などの出席がありました。

近畿同窓会からも少額ではありますが、寄付金を納めさせて頂きました。帰郷された折には立ち寄ってみてはいかがでしょうか。



## 近況をお知らせ下さい

皆様の近況や学年同窓会の様子、西高や鳥取にまつわる情報など何でも結構です。

連絡先

千六三二〇〇八〇三

奈良市山崎町二二六六一 ナンフラザビル二二〇八

村江 信幸 宛

携帯電話 〇九一三〇六五七二〇三

## 私の音楽遍歴



岩永建夫（西高四二年）

初めて人前で歌を歌った？のは小学校に入って間もない頃。袋河原の家に親戚一同が集合し、大人が酒盛りしている最中のごと。酔っぱらった親父に「オイ、建夫、歌でも歌え」と言われ、いきななクロベス（ミコシのまあつに〜とやったのが始まり（カタカナ書きは当時の解釈）笑）。以来私の脳には懐メロの数々が刷り込まれることに。

一方、四つ上の兄は、歌謡曲などに無関心、当時流行の米国型音楽が大のお気に入り。それが高じて、西高に入るとサックスを買って貰い、ジャズを演ると言う。祖母両親はむろん、附中に通学していた私も、えい袋河原でジャズ？と呆れ顔。今で言う「オタク」。そばで触るうち、自分も昔は出せるようになったが、興味はわかず。

そんな私が西高ブラバンと縁ができるキッカケとなったのは、県体で附中軟式野球チームが北中と対戦した時のこと。我が方は手拍子の応援なのに、北中は豪華ブラスパンド付き！その威容に圧倒され、よしオレも。そして西高入学の口、吹奏楽部の入部受付を見つるや、迷わず入部！パートは、むろんサックス。未経験での入部に先輩のYさん、やや困惑した顔で「まあ吹いてみて」と言う。すると、すぐに音が出た。その瞬間Yさんの驚いた顔が面白かった。以降、大学受験を心配する親や先生を尻目に三年の秋まで、ブラバン三昧。

その威勢を駆って大学オーケストラでは

ファゴット吹きに転身。この楽器、クラシックでは必須な割りに人気がなく、吹き手は希少。そのため、あちこちの大学オーケストラ演奏会での応援依頼が舞い込み、結構忙しかった。社会人になると、さすがに仕事優先なので、フオークギターが唯一の音楽の友に。そんな調子で色んな音楽に手を出している間、兄の方は大学・会社で自分のバンドを作り、袋河原以来のジャズ・サックス一筋を貫いていた。もう六年になります、会社卒業・還暦を機に、遍歴に終止符を打つべく、ジャズで「サックス選り」したのは。今年からはビッグバンドのメンバーにも。なんのことはない！結局は「兄の後追い」です。そんな自分に気づくと同時に、離れていてもやはり兄弟の縁はつながつている、を実感しています。



## 会員の近況

（昨年の返信葉書通信欄より）

川口重義（一・中五〇回）大過なくすごしております。

山中 孔（一・中五四回）大阪元氣のために、働き盛りの都心居住をめざし、有志三〇人と勉強中です。

青山 喬（一・中六〇回）体調を壊してなかなか外出が困難です。

山根立乃（高女二一年卒）若い人達に負けないように力んでいます。体がいうことをきかない年になってしまいました。でも

心の有り様だけは何歳になろうと良き先輩でありたいと願っています。

西原重恵（西高二五年卒）八〇歳を越えましたが。でも気持ちには若いです。健康に気をつけて子供達の負担にならないよう心掛けていきたいと思っています。

並川正江（西高二六年卒）お陰様で何とか元氣に毎日を過ごしております。大阪駅前第3ビルでの鳥取県出前講座にはよく出かけます。「鳥取県もがんばっている」ことを感じます。西高時代のことは今も懐かしく思い出します。

井上悦豆（西高二七年卒）恥ずかしながらまだ現役で働いて居ります。一中・西高が心の宝です。

中村 誠（西高二七年卒）妻の介護をしながら自分の心身の健康のため、空間・時間を作ることに努力しているこの頃です。

倉光私己（西高二九年卒）満七十七歳を過ぎてなお、現役を続けています。（学園の理事・教授）。一方、家内の病氣の後遺症で老々介護です。会社や団体の世話をし過ぎていて、元氣なうちに身辺整理をしなればと思っています。

草野宗子（西高三三年卒）弟の支援・介護を通して福祉に関する勉強をしています。私は元氣。朝のラジオ体操で身も心もリフレッシュの毎日です。

雷氣 茂（西高三四年卒）駐輪マナー指導員の仕事を月一五日しています。

本村博昌（西高三四年卒）本年3月に脊柱管狭窄症の手術をし、五月に退院。目下、自宅でリハビリ中です。

横山光紀（西高三六年卒）今年、杯働い

て来年から会社を息子に譲って自分のペースで働こうと考えています。

三枝弘靖（西高四〇年卒）六十五歳で仕事は辞め、毎日ウォーキング等、健康づくりに励んでおり、最近海外旅行などにも出かけております。

伊良子序（西高四三年卒）五月に鳥取との思い出を書いたエッセー「猫をはこぶ」を出版しました。

谷口正夫（西高四三年卒）大阪に住めば住むほど、歳を重ねれば重ねるほど大阪人にはなれきれません。やはり「鳥取人」ですかね。

早川洋子（西高四三年卒）平成二二年に介護事業を立ち上げ、毎日忙しくしています。

山根克彦（西高四六年卒）定年を迎え、嘱託勤務をしています。

小笠原倫子（西高四七年卒）京都に来て、あつという間に二五年も過ぎました。年に一度位は帰省しようと思つていますが、歳とともに行動力に欠けてきてます。

藤田宜久（西高五二年卒）去年は軟式野球部が全国大会へ出場し、大変嬉しかったです。

米田明弘（西高五二年卒）大阪での生活も途中転勤がありましたが通算二七年になります。

保木本正樹（平成一五年卒）京都の精密メーカーでエンジニアとして働いています。

